

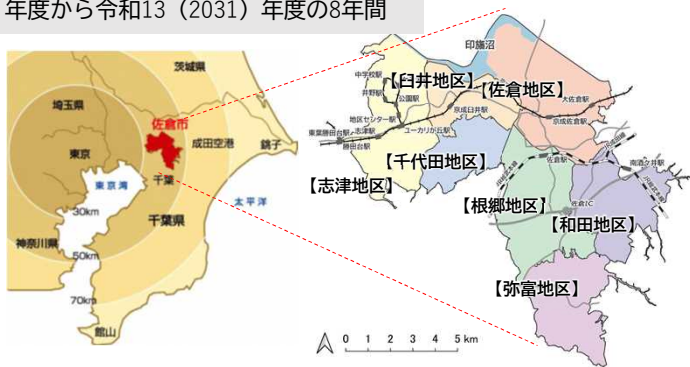
佐倉市文化財保存活用地域計画【概要版】

令和5年7月

◆計画期間 令和6（2024）年度から令和13（2031）年度の8年間

◆佐倉市の概要

- ・千葉県北部一帯に広がる下総台地の中央部に位置する首都圏近郊都市で、人口は171,037人（令和5年3月末時点）です。
- ・市北部には印旛沼があり、成田国際空港から約15km、県庁所在地の千葉市から約20kmの距離にあり、面積は104㎢です。



◆5つの歴史文化

本市において歴史的に培われてきた地域の個性、地域らしさを示す歴史文化として次の5つを挙げます。

① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

佐倉市の原始・古代の人々の生活は、印旛沼とそこに注ぐ鹿島川や手繰川などの河川を背景に育まれた豊かな自然と、そこに生息する動植物を対象とした狩猟・採集・漁労活動によって繁栄しました。その結果、印旛沼南岸を中心に地域の核となる大規模な集落が形成されました。また、印旛沼を利用した水上交通により、遠隔地との盛んな交流・交易があったことがうかがえます。印旛沼は、近世以降の河川改修や干拓を経て大きく変貌を遂げましたが、人々に大きな恩恵をもたらし、日々の衣食住の生活基盤であったことに加え、他地域との交流・交易において重要な役割を果たしたのです。各時代に印旛沼周辺域固有の文化が醸成され、これを「印旛沼文化」として捉えることもできます。



印旛沼

② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

大宝律令の制定後、現在の佐倉市の大部分は下総国印旛郡となり、当時の政府は国を治るために都を起点とした幹線道路を整備しました。東京湾から香取海を越えて常陸国を結ぶ道路は「古東海道」と呼ばれ、佐倉市域を南北に伸びる現在の国道51号線に近いルートが想定され、沿線に仏教文化が花開いたことが多くの仏教関連の遺跡などによって知られています。加えて、古東海道は須恵器等の出荷などの地域間交流に用いられ、この道を介して当時の最先端の文化や技術が佐倉にもたらされました。当時の古東海道沿い周辺の佐倉は、都から派遣された多くの役人や技術者の活発な往来がある交通の要衝として栄えた場所であり、印旛地域の仏教信仰や政治の中心地として繁栄を迎えたのです。



仏面墨書土器

③ 中世武家の興亡の舞台

中世の佐倉は千葉氏をはじめとする武家が台頭し、近世の全国的な統一政権の樹立のなかに向かっていきました。離散集合を繰り返しながら勢力を広げた武家は、自らの本拠である城館を築き、城下には市が立ち、商職人が集住し、拠点と拠点をつなぐ街道・宿場も整備されました。そのなかで、鎌倉幕府成立期の千葉氏の台頭、南北朝期の臼井氏の中期、享徳の乱にともなう千葉氏の分裂と本佐倉城の築城、臼井城における2度の大きな合戦、豊臣秀吉の天下統一により小田原北条氏と運命をともにした千葉氏、代わって関東を支配した徳川家康の一門・譜代の配置と転換など、佐倉は中世武家の興亡の舞台となりました。泰平の世となった後もその記憶は色濃く刻まれ、現在に至るまで語り継がれています。



本佐倉城跡

④ 江戸を支え、江戸と結ばれた城下町

土井利勝による佐倉城の築城以降、有力な譜代大名が城主となり老中をはじめとする幕府要職を務め、佐倉は江戸の東の要衝として政治的にも軍事的にも江戸を支えました。築城と同時に城下も整備され、江戸とは佐倉道（成田街道）により結ばれました。また、幕末の佐倉は藩主堀田正睦のもと藩校成徳書院で充実した儒学・武芸や蘭学の教育が行われ、江戸から佐倉に移住した蘭方医佐藤泰然が開いた順天堂は、近代医学の発祥地のひとつに数えられています。明治初期には城内の建物が取り壊されたものの、町の人々がかつて江戸で使われていた江戸型山車を購入し引き廻しを行い、現在も江戸で失われた祭礼文化が佐倉で受け継がれています。このように、佐倉は城下町として江戸を支え、江戸と結ばれることにより発展し、現在もその趣きを感じることができるまちとなっています。



佐倉城跡

⑤ 地域で継承される祈りと暮らし

佐倉市には、古くからの創建にさかのぼる寺社、篤く信仰を集めそこに伝えられてきた仏像彫刻や寄進・奉納された宝物類、現在まで継承される祭礼文化・民俗・芸能など、様々な祈りと暮らしの場とかが現在も残っています。これらは、古代・中世に遡るものや、江戸の祭礼文化を今に伝えつつも佐倉独自の要素が交じり合ったもの、宗派の別なく地域の一大行事としても受け継がれているもの、農村の伝統的な生活文化を伝えるものなど、様々な特徴を持ち、幅広い地域・時代に分布しています。これらは各地域の個性を現在に伝えるものとして尊重され、地域の人々のためめ努力により継承されています。



坂戸の念仏

◆関連文化財群と文化財保存活用区域

本計画では、歴史的・地理的に共通する文化財に一定のまとまりを持たせることで、措置の効果的な推進を図るため、佐倉市における歴史文化の特徴と対応する「関連文化財群」及び「文化財保存活用区域」を設定します。

▶関連文化財群

関連文化財群① 豊かな自然が育んだ印旛沼文化

主な課題	・印旛沼は、市の象徴として認識されているがアピールポイントとなる文化財が明確になっていない。
主な方針	・構成文化財をアピールポイントとした「印旛沼文化」のイメージを確立し、情報発信を推進。
主な措置	・SNSや「佐倉市デジタルアーカイブ」の活用による印旛沼文化に関する戦略的な情報発信 ・印旛沼文化に関する実物の文化財展示の推進

関連文化財群② 古東海道沿いに花開いた仏教文化

主な課題	・仏教文化が栄えた古代の佐倉について、市民が学習する機会や見学できる文化財が少ない。
主な方針	・出前授業や佐倉学講座で、地域の身近な歴史について学習する機会を設け、併せて情報発信を推進。

関連文化財群③ 中世武家の興亡の舞台

主な課題	・本群の構成文化財や全体像を把握することができる場所や機会が少ない。
主な方針	・各地区の展示スペースを活かし、繋げることで本群の構成文化財や全体像に触れる機会を提供する。

関連文化財群④ 地域で継承される祈りと暮らし

主な課題	・個人や地域で歴史文化や文化財を担っていくことが人的・組織的・資金的に難しくなっている。
主な方針	・所有者・管理者・継承団体のニーズを踏まえ、今後の確実な継承・担い手確保に向けた支援を実施。
主な措置	・地域の伝統芸能の普及の推進 ・文化財の所有者・管理者・伝承団体への補助金の交付や民間助成金の導入支援

江戸を支え、江戸と結ばれた城下町



主な課題

- ・既存の展示スペースが活かされておらず、文化財同士の面的な繋がりが乏しい。
- ・歴史文化を実際に体験し、楽しみながら学ぶことのできる機会が少ない。
- ・歴史文化の特性・強みが観光コンテンツとして十分に活かされておらず、観光客増加に繋がっていない。

主な方針

- ・構成文化財を活用した追体験・新体験の実施や、関連展示の充実、教育・観光の面での活用を推進。
- ・佐倉市観光ランドデザイン「観光Wコア構想」との連動により、構成文化財を旧城下町周辺の拠点として活用するための環境整備を推進。

主な措置

- ・城下町の歴史文化の魅力をより深く知ってもらう「追体験」の企画・実施
- ・城下町の歴史文化の価値や魅力に別の価値や魅力を付加する「新体験」の企画・実施
- ・日本遺産の構成文化財を活用した体験プログラムの造成・販売・ブラッシュアップ
- ・城下町の歴史文化をテーマとした社会科見学や修学旅行などの教育旅行の誘致
- ・区域内の既存の展示スペースの確保・維持とネットワーク化

◆計画の将来像・目標と課題・方針・措置の概要

計画の将来像・目標とその実現に必要な3つの方向性、実現にあたっての大きなプロセスである大方針とその課題、課題解決に向けた流れの具体化である方針とそれに戻る措置の主要なものの関係をまとめました。

